

# ガウディの学業成績

鳥 居 徳 敏

スペインの建築家アントニ・ガウディ・クルネートAntoni Gaudi Cornet (1852-1926) は異様な建築の作者として知られている。その異様さにもかかわらず、というよりも、余りの異様さのゆえに、1984年その3作品は100年も経過せずして世界遺産に登録された。すなわちパラウ・グエイ (グエル館1886-90)、パーク・グエイ (グエル公園1900-14)、カザ・ミラ (カサ・ミラ1906-10) の3作品である。そして20年後の今年 (2005)、サグラダ・ファミリア聖堂 (1882年着工)、カザ・ピセンス (カサ・ピセンス1883-85)、カザ・パリョー (カサ・パトリヨ 1904-06)、クローニア・グエイ教会堂 (コロニア・グエル教会堂1908-14) の4作品が同遺産に追加登録された。異様なはずのこのガウディ建築の造形世界は、しかし、『スターウォーズ』や『東京ディズニーシー』で再現され、ガウディの創案になるタイルを割いて使用する破碎タイルの手法はインド、あるいはイタリアやオランダを含む世界各地に広まり、日本ではその市販化すら見られる。また、夏のパルセロナに行けば、公開されているガウディ作品の前に、『ディズニーランド』でのように入館を待つ長い行列に驚かされることであろう。にもかかわらず、日本の建築界、すなわち一般の専門家たちの間でガウディが受け容れられているかいうと、さほどでもないと言わざるを得ない。「その存在は認める、しかし私は別だ」という考えのように見受けられる。

いづれにしても、ガウディのユニークな存在は誰もが認めよう。鬼才、奇才、天才などと呼ばれるガウディはまた、典型的な出世物語の主人公のように、貧しい家を出で苦学して学校に行きながら、「できの悪い学生」であったとされている。この「できの悪い学生」が優等生では考えられない作品を生み出したことが、一般大衆には快挙として歓迎される。もっとも「できの悪い学生」という評価は晩年のガウディ自身の発言に由来するのではあるが。

そこで本論では、資料不足でこれまで曖昧にされてきたガウディの学業成績を全面的にチェックし、当時の学生の社会的地位などを考慮しながら、学生時代のガウディをどう評価すべきかを再検討することにする。

# 1. ガウディの初等教育

ガウディの小学校時代で知られていることは、フランセスク・バラングール（Francesc Berenguer フランシスコ・ベレンゲール）とラファエル・パウラのそれぞれがレウスで開設していた2つの学校で初等教育を修めたということだ。また幼少時代はリュウマチにかかり病弱であったとの情報も伝わっている。残念ながら、当時の一次資料は何ら発見されておらず、学業成績も全く不明である。しかしながら、次のような点は十分に留意する必要があるだろう。

年	人 口	文 盲 数	割合%
1860	15,655,467	11,823,008	75.52
1877	16,634,345	11,978,391	72.01
1887	17,565,632	11,945,871	71.51
1900	18,616,630	11,875,790	63.79
1910	19,995,686	11,867,455	59.39
1920	21,388,551	11,167,806	52.23
1930	23,677,095	10,529,204	44.47

表 1. スペインの文盲者数

スペインの教育制度は1812年のカディス憲法により初めて制定され、翌年、初等・中等・高等教育の3レベルが規定された。義務教育の前者は市町村の運営となり、後者高等教育は国立の大学でなされる。中等

年	学 校 数
1870	22,711
1880	23,132
1908	24,861
1917	25,469
1923	29,487
1929	30,904
1931	35,989

表 2. 初等教育公的機関

教育は中流階級の子息を対象とした大学への準備教育とし、その教育機関は国立で各県庁所在地に設置されると定められた。ただしこれは、ナポレオンのスペイン侵入に対し、史上初の民衆蜂起になる独立戦争（1808-14）時に発布された革新的な憲法であり、1814年フェルナンド7世（-1833）が空席になっていた王位に就くと廃止されてしまった。その後、1835年には中等教育機関の創設があり、1857年には教育法が制定され、市町村が運営する初等教育（6-9才の3年間）、県の財政負担となる中等教育（10才からの6年間）、そして国立の大学、およびエンジニアや獣医などの専門学校での高等教育などが規定された。1859年以来頻繁に教育改革がなされるものの、財政的裏づけが得られぬまま、地方も国家もこの法律に応えることができなかった。結局、地方公共団体や国は試験などを通して資格認定の業務を堅持するだけに留まった。この結果は表の文盲者数の比率や公立の小学校数<sup>1</sup>に如実に反映している。

この文盲者数（表1）はスペイン語の読書きのできない数であり、できる人数には読みだけの人も含まれる。例えば、表3は1887年の統計結果の内訳<sup>2</sup>である。こうした数字を見る限り、ガウディの小学校時代（1860）での文盲者の比率は4分の3に達し、教育を受けることが容易な時代ではなかったことが判明する。初等教育を受けることが既に選ばれた子供と言っても過言ではない。カタルーニヤ地方の主都が位置するバルセロナ県の文盲率が1887年統計でスペイン最低の37-60%であるのに対し、ガウディ

	男	女	合 計
読 の み	221, 613	380, 392	602, 005
読 書 き	3, 317, 855	1, 686, 615	5, 004, 470
文 盲	5, 067, 098	6, 878, 773	11, 945, 871

表3. スペインの明盲・文盲者数内訳（1887）

が育ったタラゴナ県は60-75%だが、出身地のレウス市がバルセロナに次ぐその地方第2の都市であったことを考えると、文盲率も多少低下されていたであろうことが推測される。ガウディ家の経済環境が決して恵まれていなかったことを考えると、他と比べた場合の地域環境の良さも考慮すべきであろう。

## 2. ガウディの中等教育

ガウディの中等教育履修期間は1863-69年（11-17才）であり、これは日本の現教育制度の中・高等学校履修期

学年期	公立学校	私立学校	家庭教育	合 計
1865-66	13, 576	10, 164	2, 693	26, 433
1866-67	18, 335	6, 688	1, 936	26, 959
1867-68	18, 903	6, 385	3, 410	28, 698

表4. スペインの中等教育生徒数（人）<sup>3</sup>

間に相当する。もちろん義務教育ではなく、したがって、学生数もきわめて限定されていた。このことは収集した下記データからも明らかであろう。例えば1860年代後半、スペインの全人口約1,200万に対し中等教育履修中の生徒数は2万8千人程度に過ぎない。またこれらの統計データから判明することは、当時の中等教育は普通科と応用科の2つに大別され、それぞれ公立学校、私立学校、そして家庭での個人教育で構成されていたことだ。きわめて少数ながらも、応用科では教員、会計士、化学技師、機械技師、土地鑑定士の資格が得られる。また入学者のすべてが卒業しているわけではないことも判明する。1865-1866学年期を例にすると、この時の総学生数は26,433人、単純計算すると1学年4,405人となる。し

年	生徒数
1868	28,698
1878	31,479
1890	38,811
1900	42,439
1910	34,006
1920	52,445
1930	70,876

表5. スペイン中等教育生徒数の変遷(人)<sup>4</sup>

資 格	1865年	1866年	1867年
中等教育課程修了者	2,115	2,181	1,323
ラテン人文学教員	—	—	44
会 計 士	53	64	68
化 学 技 師	2	—	4
機 械 技 師	—	3	1
土 地 鑑 定 士	130	161	104
合 計	2,300	2,409	1,544

表6. スペインの中等教育課程修了者資格別人数(人)<sup>5</sup>

しかし、1866年の卒業生、すなわち資格取得者は2,409人に過ぎないから、ほぼ半数の2,000人弱が途中で履修を放棄したことになる。また中等教育履修者の総人口に対する割合は、1877-78年を例にすると約0.2%弱、バルセロナの場合は(1877年の人口=345,794人に対し)約0.8%弱と全国平均の4倍である。また同年代(11-16才)での割合では全国で約1.5%、バルセロナで約7.8%の子供たちだけが中等教育を受けている計算になる<sup>6</sup>。こうした数字からも、中等教育を終了し、大学への進学資格を得ることはエリート的存在と見るべきであろう。

学年	普 通 科				応 用 科					合計
	公立学校	私立学校	家庭教育	小計	公立学校	私立学校	家庭教育	速記科	小計	
1871-72	659	988		1,647	187	155		—	342	1,989
1872-73	488	1,190		1,678	159	73		—	232	1,910
1873-74	344	1,309		1,653	191	76		—	267	1,920
1874-75	347	1,453	107	1,907	166	103	13	—	282	2,189
1877-78	444	1,822	91	2,357	164	157	18	22	361	2,718
1878-79	350	1,359	—	1,709	160	100	—	—	260	1,969
1879-80	355	1,350	—	1,705	146	97	—	—	243	1,948

表7. バルセロナの中等教育生徒数<sup>7</sup>

したがって、中等教育を受け、それを修了させたガウディは既にエリート的存在といえる。しかし、これもまた様々な幸運が重なって可能になった。実は、レウスには公立の中等教育機関が1875年まで存在しなかった。しかしながら、その設置に向けての努力は一部のレウス市民によりなされており、1844年には旧フランシスコ会修道院が国から市に譲渡された。そして、1858年貧困児教育を目的と



したエスコラピアス修道会がその施設を利用し中等教育を教え始め、この機関は私立学校であるにもかかわらず、1860年に公立学校並みの資格が与えられ、1870年まで存続した<sup>8</sup>。1860年と言えば、医学を修めた兄フランセスク・ガウディ（1851-76）が9才、弟のアントニ・ガウディが8才の時であり、一般的には10才で中等教育に進むから、兄は翌年、弟は2年後に入学でき、両者とも同学校で卒業できる年齢にあった。この学校が出現しなければ14Km離れた県都タラゴナの公立学校に行かざるを得ないし、寄宿舎生活が強いられたことであろう。同時に2人の子供を抱えたガウディ家にはかなり厳しい経済的負担になったに違いない。したがって、エスコラピアス学院の開設は将来のガウディには幸運以外の何物でもなかったと想定できよう。またこの学院は貧

困児教育を目的とした修道会の経営だが、授業料が免除されているだけでなく、公立学校同様の国が定めた授業料を納める必要があった<sup>9</sup>。ガウディは1年遅れて11才の1863年に入学するものの、この学校では5学年の1868年まで履修し、最終学年はバルセロナの公立学校に履修登録する。表8はこの時代の学業成績<sup>10</sup>である。

学年期は10月-6月であり、試験は6月と9月に実施される。前者を定期試験 Exámenes ordinarios、後者を臨時試験 Exámenes extraordinarios と称し、学

レウス市エスコラピアス学院	
1学年：1863-64（11-12才）	
ラテン語・カスティーリャ語Ⅰ	（6月）普通
キリスト教教理・聖史	（6月）普通
算数、原理と演習	（6月）不可 （9月）不可
2学年：1864-65（12-13才）	
ラテン語・カスティーリャ語Ⅱ	（6月）普通
地理・スペイン史	（6月）不可 （9月）普通
修辞学・詩学	（6月）不可
3学年：1865-66（13-14才）	
ギリシア語Ⅰ	（6月）良
幾何、原理と演習	（6月）優
算数、原理と演習	（6月）良
4学年：1866-67（14-15才）	
心理学	（6月）良
地理・スペイン史	（6月）良
宗教・道徳Ⅱ	（6月）良-普通
修辞学・詩学	（6月）良
5学年：1867-68（15-16才）	
数学	（6月）良
キリスト教教理・聖史	（6月）合格

バルセロナ中等教育公立学校	
6学年：1868-69（16-17才）自由学生	
博物学	合格
物理・化学	合格

表8. ガウディの学業成績

生には2度の試験チャンスが与えられる。評価は落第の「不可 *suspenso*」と合格に大別され、後者は優秀なものから「優 *sobresaliente*」、「良 *notablemente aprovechado*」、「良-普通 *bueno*」、「普通 *mediano*」および「合格 *aprobado*」に分かれる。

入学試験（1863年9月14日）はキリスト教教理、カスティーリャ語文法、格言もしくは総合文、および算数よりなる。教理では洗礼に関する質問、文法では前置詞、固有名詞に冠詞不要の理由、および再帰動詞 *despertarse* の活用、格言では「教会に入るときは、帽子を取らなければならない」、算数では  $6789356 \times 38$  の掛け算と  $678 + 135 + 467 + 158$  の足し算が出題内容であり、3人の教師の判定で合格となる<sup>11</sup>。表8の学業成績を見て明らかなことは、1-2年生に比べ3-4年生で成績が向上していることだ。ただし、これだけでは他の生徒との比較ができない。そこで別の資料も少し紹介することにする。

科 目	履修生	科 目	履修生
算数、原理と演習	45	ギリシア語翻訳演習	9
幾何、原理と演習	23	ラテン語翻訳とギリシア語の基礎	15
算数と数学	23	ラテン語とカスティーリャ語Ⅰ	33
幾何と三角法の基礎	14	ラテン語とカスティーリャ語Ⅱ	20
キリスト教教理・聖史	33	フランス語	19
世界史とスペイン史の初歩	16	会計と簿記	9
地理学の初歩	28	製図	9
修辞学・詩学の基礎	9	測量図	7

表9. レウス、エスコラピアス学院、1863-64年度開設科目と履修登録者数<sup>12</sup>

	優	良	良-普通	普通	合格	不可	欠席	合計
聖 史	1	3	4	6	—	3	5	22
算数の原理	2	2	6	7	—	—	7	24
幾何の原理	3	4	7	4	—	—	1	19

表10. レウス、エスコラピアス学校学業成績 1865-66<sup>13</sup>

先ず学生数だが、表9の1863-64年度を例にすると、多いクラスで45人の履修生、少ないところでは7名が見られる。履修者の少ない「会計と簿記」、「製図」、「測量図」は普通科ではなく、応用科の科目に属す。ただし、普通化の科目でありながら少人数のクラスもあり、1866-67年度の「世界史」では2名、同年「フランス語」で1名というクラスも存在した。生徒たちが自由に科目履修したであろうこ

とが推測されるが、別の例としてガウディの幼馴染アドゥアル・トーダ (Eduard Toda 1855-1941エドゥアルド・トーダ) の場合 (表11) を見ると、両者の履修科目はかなり類似している。だとすると、少人数クラスの存在は学生の半数程度が中途退学している結果であろうと推測される。

ガウディとトーダの履修科目の比較で著しく異なるのが、前者が「キリスト教教理・聖史」を2回と「宗教・道徳」を1回に対し、後者は1回と2回と逆になっていることだ。すなわち前者が「宗教・道徳」のⅡだけを受講しているのに対し、後者はⅠとⅡの両方を履修している。おそらく「キリスト教教理・聖史」もⅠとⅡがあったと解釈すべきで、修道会経営の学校であることから、こうした科目が含まれていたに違いないが、国が定める中等教育課程の必修科目ではない<sup>15</sup>。また両者の履修科目は15と17でガウディの方が2科目 (「スペイン史」と「生理・衛生」) が少ないが、その理由は判然としない。

さて成績に関してだが、表10によると「キリスト教教理・聖史」と「算数、原理と演習」は欠席まで含めると『普通』に、「幾何、原理と演習」は『良—普通』に平均があろう。これから、1-2年のガウディは普通以下の成績、3-5年では成績の良い生徒であったと推測できよう。ただし、優等生の成績は3才年下で9才入学し5年で卒業したトーダの例に見られる。この優等生に対し、ガウディの方が優れた評価を得たのが「幾何」と「算数」であり、特に「幾何」では唯一の『優』を獲得している。また両者とも1868-69学年に成績が良くないのは当時の政治情勢に密接に関係していた。1868年9月に革命が勃発し、イサベル2世を廃

レウス市エスコラピアス学院	
1 学年：1864-65 (9-10才)	
宗教・道徳Ⅰ	優
ラテン語・カスティーリャ語Ⅰ	優
算数、原理と演習	良-普通
2 学年：1865-66 (10-11才)	
地理学の基礎	優
ラテン語・カスティーリャ語Ⅱ	優
幾何、原理と演習	良-普通
3 学年：1866-67 (11-12才)	
修辞学・詩学	優
宗教・道徳Ⅱ	良-普通
4 学年：1867-68 (12-13才)	
心理学	優
地理・世界史	優
数学	優
キリスト教教理・聖史	合格
5 学年：1868-69 (13-14才)	
論理・倫理	合格
スペイン史	合格
博物学	合格
生理・衛生	合格
物理・化学	合格

表11. トーダの学業成績<sup>14</sup>

位に導き、翌年6月には新憲法のもと民主制が確立し、翌7月には同じレウス出身のプリム将軍による革命政府が樹立しているのである。

こうした特別な事情などを考慮すると、ガウディは中等教育を修了することのできた少数派であり、そのなかでも優等生とはいえないものの、できの良い部類に入る生徒であったと想定できよう。

### 3. ガウディの高等教育

当時、スペインには10大学しかなく、すべてが国立であった。表12-15は1860年代後半の大学・学部別学生数、および資格取得者数<sup>16</sup>を示す。

すべての学部が4年制ではない。少し年代は下るが、1920-21年では哲文と科学学部が4年、法学と医学部が6年、薬学部が5年であった。各学部とも修了者は修士課程ではなく、博士課程に進み、前者は存在しない<sup>17</sup>。大学卒業生は学部

大 学	学 部						公証人	合 計
	哲文	科学	法学	神学	医学	薬学		
マドリード	1,837	2,558	2,714	215	2,698	546	44	10,610
バルセロナ	313	268	379	—	298	123	50	1,431
グラナダ	151	108	245	—	134	42	26	706
オビエド	65	—	104	4	—	—	1	174
サラマンカ	104	—	124	33	—	—	—	261
サンティアゴ	37	71	109	30	152	31	—	430
セビーリャ	279	77	323	34	164	—	—	877
バレンシア	154	129	237	—	217	—	—	737
バリャドリッド	169	205	286	—	202	—	25	887
サラゴサ	199	—	202	31	—	—	—	432
合 計	3,308	3,416	4,721	347	3,865	742	146	16,545

表12. スペイン全大学の学生数 1865-66年度

大 学	学 部						公証人	合 計
	哲文	科学	法学	神学	医学	薬学		
マドリード	544	1,100	1,730	114	1,357	433	68	5,346
バルセロナ	330	406	421	—	422	152	82	1,814
グラナダ	164	433	285	—	182	44	41	849
オビエド	64	—	124	3	—	—	9	200
サラマンカ	100	—	149	24	—	—	—	273

サンティアゴ	26	96	126	29	196	27	—	500
セビーリヤ	159	92	366	38	178	—	—	833
バレンシア	123	168	350	—	317	—	—	958
バリャドリッド	115	196	327	—	276	—	30	944
サラゴサ	123	—	241	23	—	—	—	387
合 計	1,748	2,192	4,119	231	2,928	656	230	12,104

表13. スペイン全大学の学生数 1866-67年度

大 学	学 部						公証人	合 計
	哲文	科学	法学	神学	医学	薬学		
マドリッド	280	411	1,427	106	2,736	660	87	5,707
バルセロナ	72	473	458	—	700	213	78	1,694
グラナダ	30	9	338	—	308	82	44	811
オビエド		—	141		—	—	8	149
サラマンカ	22	—	156	26	—	—	—	204
サンティアゴ			136		319	28	—	483
セビーリヤ	56	20	414	27	263	—	—	780
バレンシア		29	436	—	502	—	—	967
バリャドリッド			341	—	759	—	29	1,129
サラゴサ	11	—	273		61	—	—	345
合 計	471	642	4,120	159	5,648	983	246	12,269

表14. スペイン全大学の学生数 1867-68年度

学部	資 格 (タイトル)		1865年	1866年	1867年
哲文	大学前期課程修了者		126	153	302
	学士 (修士)		12	25	35
	博士		1	5	7
	(計)		139	183	344
科学	大学前期課程修了者		44	70	64
	数 学	学士 (修士)	1	—	4
		博士	1	2	—
	物 理 学	学士 (修士)	5	4	6
		博士	2	2	—
	自然科学	学士 (修士)	3	2	2
		博士	1	1	—
	(計)		57	81	76

法学	民法・ 教会法	大学前期課程修了者	360	379	382
		学士（修士）	330	492	345
		博士	16	20	29
	行政法	大学前期課程修了者	113	127	119
		学士（修士）	80	87	123
		博士	14	8	4
	公証人	公証人	9	21	24
(計)		922	1,134	1,026	
神学	大学前期課程修了者		27	23	15
	学士（修士）		17	21	9
	博士		2	8	6
	(計)		46	52	30
医学	大学前期課程修了者		225	213	154
	内科・外科学士（修士）		203	227	217
	博士		24	22	29
	医学士（修士）		1	2	—
	外科学士（修士） Licenciado en cirujia		3	20	12
	二級医師 Medico de segunda clase		1	—	—
	二級医師 Facultativo de segunda clase		—	—	4
	瀉血外科医		—	—	1
	外科学士（修士） Licenciado en cirujia medica		—	—	2
	瀉血師		28	35	20
	一級外科医		—	—	—
	二級外科医		2	—	1
	三級外科医		2	3	4
	四級外科医		—	—	—
	病院助手		—	—	2
	医療士		141	186	247
	助産婦		5	9	11
	(計)		635	717	704
薬学	大学前期課程修了者		103	94	104
	学士（修士）		96	108	116
	博士		8	4	6
	(計)		207	206	226
合 計			2,006	2,373	2,406

表15. スペイン10大学で取得した資格者数（人）

よって学士ではなく、修士に相当することから、表では「学士（修士）」と表記することにした。またガウディの時代には「大学前期課程修了者」が存在し、例えば、ガウディの場合、建築学校入学前に科学学部での履修が義務付けられていた。そのため、科学学部での「学士（修士）」の数が激減するものと推測される。同様の傾向が哲文学部にも見られるものの、他の学部では「大学前期課程修了者」と「学士（修士）」の数が近似していることから、前者のほとんどが「学士（修士）」になっていると推定できよう。

学年期	工 業 技術者 学 校	絵画 彫刻 学校	建築 学校	音楽・声楽学校				外交官 学 校	工芸 図案 学校
				音楽		声楽			
				男	女	男	女		
1865-66	175	642	141	472	435	30	52	25	63
1866-67	47	591	143	320	310	30	40	46	608
1867-68	88	603	113	350	300	40	40	27	710

表16. スペインの各種高等教育機関での学生数

スペインの高等教育は大学のみならず、高等学校 *escuelas superiores* でもなされた。1860年代後半には表16の高等教育機関の他、表19に見られるよう専門教育 *enseñanza profesional* 機関も存在した。こうした学校で取得できる資格とその取得者数が表17-18に見られる。これらは前掲した大学関連のデータと同じ統計

資格(タイトル)		年 度		
		1865	1866	1867
工業技術者	機械技師	14	49	48
	化学技師	4	5	8
	農業技師	1	1	"
商 科 教 員		4	15	12
建 築 家		"	17	9
工 匠		54	52	62
農 地 測 量 技 師		53	40	55
農業技師・農地測量鑑定士		7	9	8
作 曲 家		"	"	"
作曲以外の音楽・声楽教師		"	"	"
文 書 保 管 士 ・ 司 書		"	"	"

表17. 各種高等教育機関での資格取得者数

資格(タイトル)		年 度		
		1865	1866	1867
男子教師	上級	132	104	136
	基本	577	389	476
	普通	33	22	33
女子教師	上級	134	119	156
	基本	515	411	604
獣 医	一級	74	94	75
	二級	86	95	131
家畜牛蹄鉄工		9	12	13
去勢資格者		3	9	7

表18. 各種専門教育機関での資格取得者数

学年	師範学校		獣医 学校	商業 学校	美術 学校	工匠・建設監理 士・測量士学校	航海術 学 校
	男教師	女教師					
1865-66	4,680	1,906	1,060	239	3,709	525	532
1866-67	2,449	890	861	183	4,044	597	599
1867-68	2,289	970	867	192	4,489	460	732

表19. スペインの各種専門教育機関での学生数

年鑑に掲載された資料<sup>18</sup>だが、内容的に理解に苦しむ箇所が散見される。例えば、高等教育機関で取得する工匠の資格だが、これは専門学校の工匠・建設監理士・測量士学校で得られるはずだ。ちなみに、工匠 *maestro de obras* は建築家と相違し、公共建築には携わることができない。また建設監理士 *aparejador* は建設の現場監督を意味し、設計図に従い建設することを監理する役割を担う。当然ながら、これら2つの資格は建築家とは異なり、教育期間もその課程も異なり、したがって、学校も相違する。商科教員もまた専門学校の商業学校で取得できる資格であろう。後述するバルセロナの例を見ても明らかなように、高等学校と専門学校では余り明確な区別がないようで、両者が混同されて使用されているケースがしばしば見られる。建築学校の場合、明らかに高等教育機関であるにもかかわらず、最初期は特別学校 *escuela especial* を使用し、バルセロナの場合には県立学校 *escuela provincial* などの名称を持つこともあった。その建築分野を見ると、スペイン全土で1865年不明、1866年17名、そして1867年9名しか建築家のタイトルを取得していない。ガウディの学業成績を云々する前に、建築家になることが既に選ばれた少数派であったことを先ず認識しておく必要がある。

1865年スペインの全人口は1,600万人弱、これに対し建築家総数301名であり、前掲資料では不明であった同年の建築家の資格取得者数は7名であった<sup>19</sup>。またガウディが建築家のタイトルを取得する前の年、すなわち1877年、スペイン人口1,700万弱に対し、建築家総数は397名に増え、単純計算では毎年7名強の増加になる<sup>20</sup>。この時のマドリード在住の建築家数105名に対し、バルセロナは44名であり、それぞれの人口は前者の約40万に対し、後者は約35万であった。バルセロナでは8,000人に一人の建築家の割合になる。

実は、ガウディが中等教育を受けていた1860年代にはバルセロナに建築学校はなかった。建築家を志望するのであれば、首都マドリードに上京しなければなら



ず、ガウディ家の経済事情からそれは不可能であったに違いない。しかし、産業革命をいち早く導入し経済成長を続けていたバルセロナは農村部からの人口を吸収し、都市が急成長しており、建築家の不足は深刻な問題になっていた。こうした状況下の1868年、9月革命に乗り、バルセロナの美術アカデミーは建築学校の新設を申請し、1870年、前年9月に創設されたバルセロナ県立工科学校に属してそれが実現した。翌1871年には工科学校が廃止され、建築学校の独立をみるが、建築家の資格（タイトル）発行はマドリード建築学校の手にあり、独自では発行できないでいた。この発行も1875年より可能となり、名実ともにバルセロナ建築学校が独立する<sup>21</sup>。この学校の1期生建築家たちは1877年の8名、1878年の2期生が4名で、この4人にガウディが含まれていた<sup>22</sup>。

ガウディが建築家志望を明らかにした最初の公文書は1869年9月11日付けのバルセロナ文学大学への履修登録申請書である<sup>23</sup>。これは県立工科学校創設の翌日の日付であり、当時の教育事情に敏感に反応しているガウディを読み取ることができる。そこで、表20に当時（1870年代）バルセロナに存在した高等教育機関に在籍した学生数を示すことにする。

学年	バルセロナ文学大学					高等学校			県立学校		
	哲文	科学	薬学	医学	法学	工業技師	公証人	美術	航海術	建築	絵画・彫刻・版画
1871-72	104	152	245	1,243	639	75	141	546	384	14	69
1872-73	144	174	239	1,284	591	77	139	547	383	17	135
1873-74	63	122	202	1,123	469	95	100	629	304	32	122
1874-75	76	159	228	1,020	563	100	102	551	160	25	83
1877-78	64	132	394	1,075	628	145	168	786	200	59	—
1878-79	66	150	210	1,000	473	92	100	825	165	64	—
1879-80	60	143	200	966	483	84	100	785	166	64	—

表20. バルセロナの高等教育機関在学生数<sup>24</sup>

残念ながら、1875-76年度と1876-77年度の資料が不足する。県立絵画・彫刻・版画学校は美術高等学校に付属し県の財源で運営されたが、1877-78年度以降の記録はない。後述するように、この表のうちガウディが履修した機関は大学の科学学部と県立建築学校である。

### 3-1. 建築高等学校履修規則

1887年当時のマドリッド建築高等学校長によると、1864年制定の履修規則が現行法として生きており、それは1868-69年の革命時における「教育の自由」においても変更されることはなかった<sup>25</sup>。この規則に従うと、建築教育は7年制であり、予科の3年を科学学部で、本科の4年を建築学校で履修する<sup>26</sup>。ただしナバスクエスによると、予科制度は1875年のカリキュラムで廃止され、1885年に復活したという<sup>27</sup>。いずれにしても、1875年以前に入学したガウディは1864年の履修規定に従うことになる。この予科システムが前述した大学科学学部修了者のほとんどを前期修了者にするのであろう。

予科での必修科目は「代数、幾何、および直線・曲面三角法補遺」、「二・三次元分析幾何」、「差と変動微積分学」、「力学」、「図法幾何学（図学）」、「測地学」、「実験物理」、「地質学の基礎知識を含み、動物学、植物学、鉱物学」、および「あらゆる建物の詳細を水彩で模写できるまでの製図力習得」の計9科目である。

本科への入学条件は、1. 25才以下、2. 中等教育修了者、3. 科学学部で予科科目を優秀に修了した者、4. 入学試験合格者、であり、学年期は10月1日始業、5月30日終業、祝祭日を除き毎日7時間授業、9月後半2週間入学試験、6月前半2週間学年末試験と規定される。学校は講座制で、1. 力学、2. 石截術、3. 建築・装飾材料、4. 一般芸術論、創作、平面計画、装飾、5. 芸術論への図学応用、6. 合法建築、監理、建築経営、の6講座よりなる。また、本科4年間の授業内容も次のように定められた。

#### 1 学年：

1. 建築構造応用力学、材料強度、建築構造基準に関わる公式の解説とその応用、頻繁に使用される原動機の学習、水利と水理計画（毎日1時間半講義）
2. 測量、理論と演習（隔日1時間半講義）
3. 石材、木材、金属の截断術（加工法）、陰影図、透視図、測定図への図学の応用（毎日1時間半講義）
4. 製図：建物、およびその主要部分の模写（毎日全自由時間）

#### 2 学年：

1. 鉱物学と化学の基礎知識、および建築材料への応用、それらの分析と生産方法（週2回、1時間半講義）

2. 材料の加工と使用法。構造や装飾としての材料の組合せ、縄張り、原寸図、および新旧公共施設・水利施設計画（毎日1時間半授業、隔日に講義と演習）
3. 様々な様式の提示と比較、および古代・近代の建築や土木・水利施設の構造、平面計画、ならびに装飾の検討に基づく一般芸術論（毎日2時間講義）
4. 製図：建物の部分、もしくは装飾全体の創作試案（毎日全自由時間）

3 学年：

1. 都市の安全と維持、建物と公衆衛生、合法建築（週3回講義）
2. 製図：第二種建築の創作、計画、および装飾への芸術論応用（毎日全自由時間）

4 学年：

1. 技術、見積作成、建物の測定と図面化、見積査定、覚書き（仕様書）、契約、建築に関わる現行法への適用（週3回講義）
2. 製図：全種建築、および公共建築の創作、計画、および装飾への芸術論応用（毎日全自由時間）

その他の規定では、学生の義務として出席の義務があり、年間8日の欠席、または遅刻16回でその科目は不合格。この場合の遅刻は15-30分の遅刻を指し、それ以上遅れた場合は欠席扱い。2年留年で退学処分。病欠は30日まで可能で、それ以上は留年、ただし病欠の場合、留年は何年でも可能。15分以内の遅刻は4回で遅刻一回に換算され、30回の授業欠席は留年となる。授業時間内の外出は禁止、製図に関してはその開始と修了時に教授による日付とサインを必要とする。夏期休暇を利用し、建設現場への実習、及び建築モニュメントへの訪問が義務付けられる。

学業評価は、中間試験、学年末試験、卒業試験が実施され、優 sobresaliente、良 bueno、普通 mediano、不合格 reprobado の4段階評価。進学には最低2科目以上の「良」を必要とする。不足する場合、9月前半の臨時試験を受験できる。留年した場合には、全科目への出席義務が課せられる。

校長の年間給与3万レアル（＝7,500ペセタ）に対し、学生の授業料は100レアル（＝25ペセタ）、その半額は始業式前、残り半額は学年末試験前に納付する。

### 3-2. 県立バルセロナ建築学校

前述したように、ガウディは中等教育修了に不足していた2科目、すなわち「博物学」と「物理・化学」をバルセロナ中等教育公立機関で1868-69年期に取得した。そして、1869年9月には建築学校への進学を目的としてバルセロナ文学大学科学学部履修登録を申請し、表21に示した単位を取得する。「有理力学」を除く4科目は各学年末の定期試験ですべて評価「合格」で終えている。

現在知られている建築学校時代のガウディ最古の資料は1873年6月6日付けの入学試験申請書である<sup>28</sup>。また、翌1874年10月20日付け公文書ではガウディ自身が同校在学

学年	科目	評価	
		定期試験	臨時試験
1869-70	代数、幾何、直線・球面三角法補遺	合格	—
1869-70	2・3次元解析幾何学	合格	—
1870-71	微積分	合格	—
1870-71	図法幾何学	合格	—
1870-71	有理力学	(履修登録)	
1872-73		—	試験申請
1873-74		—	合格
1873-74		—	合格

表21. バルセロナ大学、科学学部：  
ガウディの学業成績

生であることを表明している<sup>29</sup>。ガウディの科学学部での学業成績は、前記した履修規定である予科での科目数、また優秀な成績という面においても、それらの条件を満たしてはいない。この疑問を解消するため、「バルセロナ建築高等学校 Escuela Superior de Arquitectura de Barcelona」が発行したガウディの公式学業成績を表22（翻訳）に示す。この表で原本と相違する点は科目名通し番号を示す2番目の「T」列を挿入した点である。この通し番号3（以下「T-3」と表記）が抜けているが、これは「フランス語翻訳」に該当する。逆に原本にあって掲載した表に不足する内容は、科学学部での5科目履修証明書と中等教育最後の2科目履修証明書が建築学校に提出されたこと、および建築家のタイトルが1878年3月15日付けでマドリードから発行された2点である。タイトルは最終的にはスペイン政府（当時は勸業省）の許認可権に属することからマドリード発行となる。

この成績表分類では建築学校に「予科」が存在する。実は前述した履修規定の最後の条項に、移行期の処置として、予科の図面関連の科目は建築学校でなされる、と追記されている。したがって、これを含めると予科3年、本科4年の規定を満足することになる。ただし、予科で履修すべき科目数9科目のうち、以下の

4科目「測地学」、「実験物理」、「地質学の基礎知識を含み、動物学、植物学、鉱物学」、および「あらゆる建物の詳細を水彩で模写できるまでの製図力習得」に該当する科目がない。少なくとも最後の製図関連は建築学校の予科の科目に読替え可能だが、残る3科目に対応するものがない。敢えて読替えるとするれば、中等教育履修証明書の2科目「博物学」と「物理・化学」が「地質学・・・」と「実験物理」に対応させることができる。だからこそ、証明書が提出されたものと推測される。残る「測地学」は本科4群T-22「測量」で読替えている可能性が高い。後述するように、この科目の履修登録は1872-73年期であり、建築学校入学以前の

分類	T	科目	定期試験	臨時試験	学年
入学試験	1	製図		合格	1873-74
	2	デッサン		合格	1873-74
予科	4	石膏デッサン		合格	1873-74
	5	建築詳細（図）		合格	1873-74
	6	陰影と透視図	合格		1874-75
第1群	7	切石術	合格		1874-75
	8	応用力学（材料強度）	合格		1874-75
	9	建築材料	合格		1875-76
	10	建築史	合格		1875-76
	11	建築製図		合格	1873-74
第2群	12	施工	良		1875-76
	13	一般芸術論	合格		1875-76
	14	水力学	合格		1874-75
	15	建築設計Ⅰ		優	1874-75
第3群	16	機械と原動機	合格		1874-75
	17	公共建築（学）	合格		1875-76
	18	技術	合格		1876-77
	19	建築設計Ⅱ		良	1875-76
第4群	20	建築への物理学応用	合格		1876-77
	21	合法建築	合格		1876-77
	22	測量	合格		1875-76
	23	建築設計Ⅲ	良		1876-77
資格試験	24	スケッチ	合格	1877. 10. 22	
	24	最終案	合格	1878. 01. 04	

表22. 県立バルセロナ建築学校：ガウディの成績表

登録であるからだ。

予科の初年度が1869-70年、本科の最終年度が1876-77年であるから、ガウディは建築課程修了に8年を要し、規定の7年よりも1年のオーバーとなる。

次に成績の最終結果だけではなく、その履修課程を見るために表23を作成した。この表を見る限り、建築学校での在籍期間は5年となり、予科1年と本科4年の計5年に合致する。したがって、成績表に現れない1871-72年期の1年が無学籍の期間であり、これが期間オーバーの1年分に対応する。この1年無学籍の原因は定かではない。例えば兵役だが、ガウディは1874年7月に兵役に服し、1875年2月から1876年12月までバルセロナ歩兵隊に所属した後、1年間の兵役免除（た

だし半年は現役、半年は予備兵）、1878年1月6ヶ月間の兵役免除、これは予備役にも適用され、同年4月末トルトーサ所属の予備役となる<sup>31</sup>。したがって、この兵役期間とは一致しない。逆に、ガウディの学業成績は兵役期間を通じて好転しているように見える。1872-73年期は4科目の履修登録と3科目の試験結果、および1科目の試験申請があるにもかかわらず、1科目も合格していない。次の1873-74年期は6科

学年期	T	科 目	評 価	
			定期試験	臨時試験
1872   1873	1	製図	不合格	
	3	フランス語翻訳		試験申請
	4	石膏デッサン		不合格
	5	建築詳細（図）	不合格	
	7	切石術	（履修登録）	
	8	応用力学（材料強度）	（履修登録）	
	11	建築製図	（履修登録）	
1873   1874	22	測量	（履修登録）	
	1	製図		合格
	2	デッサン		合格
	3	フランス語翻訳		合格
	4	石膏デッサン		合格
	5	建築詳細（図）		合格
	6	陰影と透視図		不合格
	7	切石術		不合格
	8	応用力学（材料強度）		不合格
	9	建築材料	（履修登録）	
	11	建築製図		合格
	12	施工	（履修登録）	
	15	建築設計Ⅰ（スケッチ）		合格
	15	（最終案）		不合格
	19	建築設計Ⅱ	（履修登録）	
	22	測量		試験申請

目合格、4科目不合格、4科目試験結果なし。本科2学年に相当する1874-75年期は6科目合格、その一つ「建築設計Ⅰ」は優の成績、1科目不合格、3科目試験結果なし。3学年の1875-76年期は全7科目定期試験で合格。このうちT-19「建築設計Ⅱ」も定期試験で合格しているから、臨時試験の必要はない。にもかかわらず、受験したのは成績を改善するためであり、この結果「優」を取ることにより、同科目の年間賞への応募資格を得た。この履

1874   1875	6	陰影と透視図	合格	
	7	切石術	合格	
	8	応用力学（材料強度）	合格	
	9	建築材料		試験申請
	12	施工		試験申請
	13	一般芸術論	(履修登録)	
	14	水力学	合格	
	15	建築設計Ⅰ（スケッチ）		合格
	15	(最終案)		優
	16	機械と原動機	合格	
1875   1876	22	測量		不合格
	9	建築材料	合格	
	10	建築史	合格	
	12	施工	良	
	13	一般芸術論	合格	
	17	公共建築（学）	合格	
	19	建築設計Ⅱ	良	
	19	建築設計Ⅱ（スケッチ）		合格
1876   1877	19	(最終案)		優
	22	測量	合格	
	18	技術	合格	
	20	建築への物理学応用	合格	
	21	合法建築	合格	
1877	23	建築設計Ⅲ（スケッチ）	合格	
	23	(最終案)	良	

表23. バルセロナ建築学校：ガウディの学年別履修表<sup>30</sup>

修表には表記されていないが、年間賞にも応募し、『栈橋』を課題とする計画を作成するものの、「該当者なし」と評価され、ガウディは受賞を逃している。この学年は余裕を持って学業に望んでいるように見える。そして、最終学年の1876-77年期も4科目すべて、定期試験で合格する。

前述した兵役は1874年7月に始まっているから、時期としては1学年の臨時試験（9月）の時から学業と重なっていることになるが、この時期から勉学に取り組む姿勢が見られる。したがって、ガウディにとって兵役は肯定的な影響を与えたものと推測される。おそらく、将来の自分を考えさせる絶好の機会になったの

であろう。

ただし、ガウディは1873年9月30日付けの申請書で「予備役により反復的に兵役に服した」ことを理由として入学試験等実施の特別配慮を申出ている<sup>32</sup>。継続的な正式兵役とは相違して断続的であったことを考えると、申請書の理由をもって、学業成績の悪い根拠にすることは難しいであろう。

次に1864年の法律で定められた履修科目とガウディの履修科目を比較検討することにする。

ガウディの成績表に記されている科目名は便宜上の名称であり、正式科目名は相当に長い。そこで各科目の正式名称、この場合、科目別成績表などで使用されている詳しい科目名と同時に、判明した範囲で各科目別の受験者数や他学生の修めた成績評価を紹介することにする。

T-1. 製図：「あらゆる種類の建物の詳細を水彩で模写する製図」、これは1872-73年度定期試験（1873年6月11日）成績表に記された科目名であり、ガウディを含む4名の受験生全員が不合格。1873-74年度臨時試験（1874年10月24日）では「製図、入学」の名称でガウディを含む2人の受験生が共に「合格」。

T-2. デッサン：ガウディの成績表でFiguraと唯一手書きで記されている「入学試験」科目のひとつであり、人物などのデッサンと推測される。

T-3. フランス語翻訳：ガウディの1874年10月19日付け申請書によると、建築学校に提出すべき履修証明書の1科目であり、その不足から建築学校での受験を申請する<sup>33</sup>。事実、同年同月24日の試験では建築学校校長ロジェン、教授フアン・トーラスとピラセカの試験官3名に対し、受験生はガウディ1人で「合格」となる。

T-4. 石膏デッサン：ガウディの成績表にのみ出現する科目

T-5. 建築詳細（図）：ガウディの成績表にのみ出現する科目

T-6. 陰影と透視図：ガウディの成績表にのみ出現する科目

T-7. 切石術：「石材、木材、金属の截断術（施工図）、図法幾何学（図学）と日時計幾何学の応用」、1874年10月24日の1人試験不合格、翌年6月30日定期試験で8名中4人の1人として「合格」を得る。

T-8. 応用力学：「建築構造応用力学、材料強度、建築構造基準に関わる公式の



解説とその応用、頻繁に使用される動力機の学習、水利と水理計画」、1874年10月24日臨時試験不合格、この日は1人受験だが、同学年期同科目臨時試験全体では6人中3人が不合格。1875年6月28日定期試験ではガウディを含む5名全員が「合格」。

T-9. 建築材料：「鉱物学と化学の基礎知識、および建築材料への応用、それらの分析と生産方法」、1876年6月10日定期試験「合格」、同科目同定期試験では受験生6名全員合格、友人のカスカンテのみが「良」。

T-10. 建築史：ガウディの成績表にのみ出現する科目

T-11. 建築製図：「製図。建物、あるいはその主要部の模写」、1874年11月5日1人受験で「合格」。

T-12. 施工：「材料の加工と使用法。構造や装飾としての材料の組合せ、縄張り、原寸図、および公共施設・水利施設計画」、1876年6月13日定期試験「良」、同科目同学年期定期試験では9人中2人が「良」、6人が「合格」、1人が不合格となる。

T-13. 一般芸術論：「様々な様式の提示と比較、および古代・近代の建築や土木・水利施設の構造、平面計画、ならびに装飾の検討に基づく一般芸術論」、1876年6月28日定期試験にて合格、同科目同学年期定期試験では8人全員の受験生が合格し、その半数が「良」の評価を得る。

T-14. 水力学：ガウディの成績表にのみ出現する科目

T-15. 建築設計 I：「製図。建物の部分、もしくは装飾全体の創作試案」、これは「演習 I、スケッチ案」と「演習 II、最終案」よりなり、1874年の臨時試験では11月6日の前者は合格するものの、11月17日の後者で不合格となる。この学年期の同科目臨時試験は5名中2人のみが合格。翌75年9月21日と30日の臨時試験では、前者は7名中2名、後者は3人中2名が合格し、ガウディのみが「優」を取る。

T-16. 機械と原動機：ガウディの成績表にのみ出現する科目

T-17. 公共建築（学）：これもガウディの成績表にのみ出現する科目だが、直訳は「社会目的の観点から見た建物の検討」となる。

T-18. 技術：「技術、見積作成、建物の測定と図面化、見積査定、覚書き（仕様書）、契約、建築に関わる現行法への適用」、1877年6月15日定期試験で合

格。この試験では6人全員合格、そのうち1人が「良」でもう1人が「優」を獲得する。

T-19. 建築設計Ⅱ：「製図：第二種建築の創作、計画、および装飾への芸術論応用－第3学年」、1876年6月30日定期試験、同年度同科目定期試験では4人受験で、3人が「合格」、ガウディのみが「良」の成績を修める。既に述べたように、同科目年間賞への応募資格には「優」を必要とするため、臨時試験（同年9月16日と10月11日）を再受験。結果、「優」を獲得し、年間賞に応募する。この年間賞に関しては3・4学年の各科目別に1・2等賞が規定され、前者には200レアル（50ペセタ）、後者には100レアル（25ペセタ）の褒賞が与えられる<sup>34</sup>。後者の金額は年間授業料に相当する。

T-20. 建築への物理学応用：ガウディの成績表にのみ出現する科目

T-21. 合法建築：「都市の安全と維持、建物と公衆衛生、合法建築」、1977年6月14日定期試験、7人受験中6人「合格」、残る1人のみ「優」。

T-22. 測量：「測量、理論と演習」、1875年9月13日臨時試験では1人受験で不合格、翌年6月8日定期試験で「合格」、同科目同年度定期試験では4人の受験生全員が「合格」の成績。

T-23. 建築設計Ⅲ：「製図：全種建築、および公共建築の創作、計画、および装飾への芸術論応用」、定期試験1877年6月12日の「スケッチ」に合格、同月30日「最終案」で「良」の評価を得る。両者とも1人受験。

以上の県立バルセロナ建築学校の科目内容を1864年公布の履修規定と比較すると、次のような対応関係になる。

1 学年：1⇒T-8 応用力学、2⇒T-22 測量、3⇒T-7 切石術、

4⇒T-11 製図

2 学年：1⇒T-9 材料、2⇒T-12 施工、3⇒T-13 芸術論、

4⇒T-15 設計Ⅰ

3 学年：1⇒T-21 合法建築、2⇒T-19 設計Ⅱ

4 学年：1⇒T-18 技術、2⇒T-23 設計Ⅲ

これら対応科目以外では、T-1 製図とT-2 デッサンは入学試験科目、T-3 フランス語は入学以前の履修科目、T-4 石膏デッサンとT-5 建築詳細は試験記録に出現しない科目名であり、内容的にはT-11 製図に含まれ、しかも同学年年に合

格していることなどから、履修規定1学年4「製図」の分割科目と推測される。同様にT-6陰影と透視図はT-7切石術に、T-10建築史はT-13芸術論に、T-16機械と原動機はT-8応用力学に含まれる内容であろう。他方、T-14水力学はT-12施工に、T-17公共建築はT-21合法建築に、T-20建築への物理学応用はT-8

履修規定			0	I-1	I-2	I-3	I-4	II-1	II-2	II-3	II-4	III-1	III-2	IV-1	IV-2
T			1	8	22	7	11	9	12	13	15	21	19	18	23
科目名			入学試験	応用力学	測量	切石術	建築製図	建築材料	施工	芸術論	設計I	合法建築	設計II	技術	設計III
一八七三年	臨時試験	優良													
		合格	6	2							1				
		不可	4		1	2		1			1				
		計	10	2	1	2	0	1	0	0	2	0	0	0	0
一八七四年	臨時試験	優良													
		合格	4	3			7	4		1	2				1
		不可		3	1	2			3		3		3		
		計	4	6	1	2	7	4	3	1	5	0	3	0	1
一八七五年	定期試験	優良													
		合格		5	3	4		1	3	3	2	2	1	1	1
		不可			1	4	1		1		1	2			
		計		5	4	8	1	4	4	2	3	3	1	1	1
一八七五年	臨時試験	優良									1				
		合格				5	1			1	2		1		1
		不可		1	1			1	2		4	1	2		
		計		1	1	5	1	1	2	1	7	1	3	0	1
一八七六年	定期試験	優良													
		合格		6	4	2	1	1	4	4		3	1	1	
		不可				1			1						1
		計		6	4	3	2	6	11	8	2	3	4	3	4

表24. 県立バルセロナ建築学校、定期・臨時試験結果一覧表（人数）

応用力学またはT-13芸術論に合致するものの、合格年次の相違、および成績評価の相違も見られる。したがって、現在判明している資料のみでは、最後の3科目について理解することは困難と言わざるを得ない。他方、現在判明している学業に関わる資料の中には、各年度の定期・臨時それぞれの試験結果をまとめた一覧表が存在する。そこには科目名、全受験者氏名、および評価が記されている。表24は現在までに発見されている一覧表をまとめたもので、表の1・2行目は論者が挿入した項目であり、「履修規定」は1864年公布履修科目の学年別（ローマ数字）の科目番号を、「T」はガウディの成績表に挿入した科目名の通し番号を指す。網掛けの枠はその人数にガウディが含まれることを意味する。

この表で明らかになることは、試験科目は法律で定められた科目、すなわち入学試験と本科の12科目であり、配列順序も「履修規定」に従っていることである。また科目別試験記録にも、前述した「フランス語翻訳」を例外として、この表の13科目以外の記録が存在しない。さらに、ガウディは1872-73年度に4科目（切石術、応用力学、建築製図、測量）、1873-74年度も同じく4科目（建築材料、施工、設計Ⅰ、設計Ⅱ）、1874-75年度に1科目（芸術論）、1876-77年度に3科目（技術、合法建築、設計Ⅲ）の計12科目の履修登録しかしていない。入学試験は別扱いであるから、この履修登録された科目も法律で定められた「履修規定」を遵守していることになる。

1977年バルセロナ建築学校（現カタルーニャ工科大学バルセロナ建築学部）創立100周年を記念し、展示会が開催された。そのカタログには「教授陣とカリキュラム」と題した一覧表の付録が挿入されている<sup>35</sup>。これによると、カリキュラム変更は1875年、1896年、1914年、1933年、1957年、1964年、1973年の計7回あった。実は、ガウディの成績表の科目配列は1896年のカリキュラム変更に基づく構成に一致する。先述したように、その前の1875年カリキュラムには予科は存在しない。また同表に従えば、授業科目T-6「陰影と透視図」は1876年、T-10「建築史」、T-14「水力学」、T-16「機械と原動機」の3科目は1877年、T-4「石膏デッサン」、T-5「建築詳細」、T-17「公共建築」、T-20「建築への物理学応用」の4科目は1889年、そしてT-2「デッサン」は1899年に開設されている。この情報が正確とするならば、ガウディはこれら9科目すべてを開講前に履修していたことになる。

以上のように、現在知れている資料には不可解な部分があり、すべてを信じることはできない。しかしながら、本科12科目に関しては試験結果の資料からも裏づけが取れ、信用に足るものと判断できる。表25は予科・本科とも一次資料に基づいたガウディの成績表（修正）である。

分 類	T	科 目	定期試験	臨時試験	学 年 期
予 科	-	代数、幾何、三角法	合格		1869-70
	-	2・3次元解析幾何学	合格		1869-70
	-	微積分	合格		1870-71
	-	図法幾何学	合格		1870-71
	-	有理力学		合格	1873-74
	3	フランス語翻訳		合格	1873-74
入学試験	1	製図		合格	1873-74
1 学 年	8	応用力学	合格		1874-75
	22	測量	合格		1875-76
	7	切石術	合格		1874-75
	11	建築製図		合格	1873-74
2 学 年	9	建築材料	合格		1875-76
	12	施工	良		1875-76
	13	一般芸術論	合格		1875-76
	15	建築設計Ⅰ		優	1874-75
3 学 年	21	合法建築	合格		1876-77
	19	建築設計Ⅱ		優	1875-76
4 学 年	18	技術	合格		1876-77
	23	建築設計Ⅲ	良		1876-77
資格試験	24	スケッチ	合格	1877. 10. 22	
	24	最終案	合格	1878. 01. 04	

表25. 県立バルセロナ建築学校：ガウディの成績表（修正）

この本科12科目のガウディの成績は2つの「優」、2つの「良」、残り8科目の「合格」であった。表24では「優」「良」それぞれ一つであるが、1876年臨時試験で「設計Ⅱ」の評価を「優」に向上させ、1877年の定期試験で「施工」と「設計Ⅲ」で「良」の評価を得る。規定では進学には半分の「良」を必要としたが、ガウディの履修ではそれは適用されていない。バルセロナでは評価名称ですら「優 sobresaliente」以外の3評価に規定とは異なる単語を当てているように、必ずし

も規定通りには運用されなかったようだ。かつ、表24で明らかなように、半分が「良」以上の成績であることを条件とすれば、バルセロナの場合、誰一人進級できないであろう。例えば、1875年度は定期・臨時試験すべての評価がそろっているにもかかわらず、延べ人数で「合格」の36人と「不可」が22人に対し、「良」以上の評価はわずか3人であるからだ。また「履修規定」にあった出席義務をガウディが果たしていたとも考えられない。なぜなら、1876年11月末から翌年初めにかけて記された唯一の日記からは、授業に出席できないでいるガウディの姿が認められるからである。この点でも、規定の条件を満たしていない。アルバイトの必要があったガウディには好都合であり、もし規定通りであったなら、建築家ガウディの出現はなかったかも知れない。

同じ表24で驚くことは、既に何度か触れているように、各科目の受験者数の少ないことだ。一人受験もしばしば見られ、多いときでも11名である。これは建築の学生数の少ないことを如実に示している。これだけでもガウディが圧倒的な少数派の一人であったことが判明する。さらに成績の評価を見たとき、ガウディの成績が決して悪くないことにも気付くであろう。同じく表24で「優」を取得したのは唯一ガウディだけであった。この成績は、少なくとも判明している表の中では、「不可」9人と「合格」9人をベースとしている。建築家としてもっとも力を発揮すべき科目「建築設計」のⅠ・Ⅱ・Ⅲで、ガウディは2つの「優」と一つの「良」を得ているのである。これは建築学生としては、少なくとも当時のバルセロナ建築学校のなかでは優等生と呼べる成績と言うべきであろう。

## 結論

19世紀半ばのスペインの状況を考えると、初等教育を受けることが既に少数派的存在であった。この少数派のなかから中等教育に進み、その成績は優等生に比べるならば劣るものの、出来のよい生徒と評価できるものであった。この学生ガウディは、必ずしも経済的境遇に恵まれた環境にはなかったにもかかわらず、高等教育、それも予科3年本科4年、計7年の建築学校に進学する。最後の3年を除く4年間は決して芳しい成績とはいえない。もっとも、1874年までは他学生の成績も決して良くはなく、半分ほどが試験で落とされているように推測される。しかし、建築設計という建築家にとって本命の演習科目では他の学生を寄せ付け

ない優秀な成績を修めている。ガウディ本人が言うように、理論的な科目では成績が悪かったのかも知れないが、他の学生も同様であったことを考えると、彼だけを出来の悪い学生であったとは言えないであろう。したがって、建築学生としてガウディは優秀であったと結論しなければならないであろう。

ガウディは、言葉とは裏腹に、自らの学業を誇らしげに思っていたに違いない。現在残されている当時の唯一の写真には、それを証明しているかのように、誇らしげに写っている彼の姿が見られる。

残念ながら、ガウディは出来の悪い学生が優等生以上の実績を残したケースには当らない。彼は建築家の卵として学生時代から優れ、その優位性を保ち続けるために生き、その結果、他の人には達し得ない境地にまで進むことができたのであろう。



アントニ・ガウディ (1852-1926)、  
1878年 (26歳) 頃 Museo de Reus

<sup>1</sup> Martínez Ruiz, Enrique ; Maqueda, Consuelo, y Diego, Emilio de : *Atlas histórico de España II*, Madrid, Istmo, 1999, pp.152-55

<sup>2</sup> “La Hormiga de Oro”, Año X, Núm. 30, Barcelona, 1893.08.14, p.297

<sup>3</sup> Dirección General de Estadística: *Anuario Estadístico de España: 1866-67*, Madrid, 1870 pp.498-503

<sup>4</sup> 注 1 参照

<sup>5</sup> 注 3 参照

<sup>6</sup> Ayuntamiento de Barcelona-Negociado de estadística, padrón y elecciones :

---

*Anuario estadístico de la ciudad de Barcelona-Año I.1902*, Barcelona, 1903, pp.97, 144, 147

<sup>7</sup> “Almanaque del Diario de Barcelona” para el año 1873, p.166; Ídem para el año 1874, p.113; Ídem para el año 1875, p.117; Ídem para el año 1876, p.112; Ídem para el año 1879, p.140; Ídem para el año 1880, p.129; Ídem para el año 1881, p.129

<sup>8</sup> Guix Sugranyes, Josep M<sup>a</sup>: *Miscel·lània: I Centenari de L’ Institut d’ Ensenyament Mitjà a Reus*, Reus; Institut “Gaudí”, 1976, pp.79-82

Bau, P. Calasanz: *Historia de las Escuelas Pías en Cataluña*, Barcelona, 1951, p.351. 次書参考 Martinell y Brunet, César: *Gaudí, su vida, su teoría, su obra*, Barcelona; COACB, 1967, p.15

<sup>9</sup> 履修登録申請書 “Colegio de Escuelas Pías de Reus. Curso de 1863 a 1864, No.48” および “Ídem. Curso de 1864 a 1865, No.52” タラゴナの Instituto de Educación Secundaria Antoni de Martí i Franquès 資料室所蔵、複写をレウス市立サルバドール・ビラセカ博物館長のマソー氏より提供される

<sup>10</sup> Ràfols, J.F.: *Gaudí 1852-1926*, Barcelona; Aedos, 1960 (Barcelona; Claret, 1999), pp.187-88

Massó Carballido, Jaume: “Antoni Gaudí i Eduard Toda”, 次書収録 *Gaudí: Reus i el seu temps*, Reus; Centre de Lectura, 2003, pp.64-65

学業成績資料、タラゴナの Instituto de Educación Secundaria Antoni de Martí i Franquès 資料室所蔵

<sup>11</sup> “Colegio de Escuelas Pías de Reus, incorporado al Instituto Provincial de Tarragona. Exámenes de entrada. En la Ciudad de Reus a los 14 de septiembre del año 1863 los Profesores abajo firmados procedieron al examen del alumno D. Antonio Gaudí y Cornet”, I.E.S. Martí i Franquès 資料室所蔵。図録 *Museu Salvador Vilaseca: Gaudí & Rues*, Reus; Ajuntament de Reus, 2002, p.153, “Antología d’ articles i documents originals” (Transcripció de Jaume Massó Carballido)

<sup>12</sup> “Curso de 1863 a 1864: Relación nominal de los alumnos matriculados en el



---

Colegio privado de Reus y asignaturas que se expresa en las cuales pueden presentarse a exámenes de prueba de curso”, I.E.S. Martí i Franquès 資料室所蔵

- <sup>13</sup> “Lista de los alumnos del Colegio de Escuelas Pías de Reus, que pueden ser admitidos a exámenes ordinarios de fin de curso de 1865 a 1866”, I.E.S. Martí i Franquès 資料室所蔵
- <sup>14</sup> Massó Carballido, Jaume: “Antoni Gaudí i Eduard Toda”, 次書収録 *Gaudí: Reus i el seu temps*, Reus; Centre de Lectura, 2003, pp.64-65
- <sup>15</sup> “Enciclopedia Universal” de Espasa - Calpe, T.21, p.1080
- <sup>16</sup> Dirección General de Estadística: *Anuario Estadístico de España: 1866-67*, Madrid, 1870 pp.499-501
- <sup>17</sup> “Enciclopedia Universal” de Espasa - Calpe, T.21, p.1081
- <sup>18</sup> 注16と同じ年鑑、pp.502-03
- <sup>19</sup> *Lista de arquitectos individuos de la Sociedad Central en 1866*, “Anuario de la Sociedad Central de Arquitectos”, Año Primero, pp.13-20, Madrid, 1865
- <sup>20</sup> *Lista de los arquitectos españoles, publicada por la Sociedad Central*, Madrid, 1878
- <sup>21</sup> Bassegoda Nonell, Juan: *Los maestros de obras de Barcelona*, Barcelona: Editores técnicos asociados, 1973, pp.37-40
- <sup>22</sup> “Lista de promocions d’arquitectes”, en *Exposició commemorativa del centenari de l’Escola d’arquitectura de Barcelona 1875-76/1975-76*, Barcelona: E.T.S.A.B, 1877, p.285
- <sup>23</sup> 資料番号 N.0425236、カタルーニャ工科大学バルセロナ建築学部「ガウディ記念講座」、資料箱 “Documentos académicos”  
Mercader, Laura: *Antoni Gaudí, escritos y documentos*, Barcelona: El Acanalado, 2002, pp.241-42
- <sup>24</sup> “Almanaque del Diario de Barcelona” para el año 1873, p.166; Ídem para el año 1874, p.113; Ídem para el año 1875, p.117; Ídem para el año 1876, p.112; Ídem para el año 1879, p.140; Ídem para el año 1880, p.129; Ídem para el año 1881, p.129

- 
- <sup>25</sup> Lallave y Ravanal, José Jesús de: *Escuela Superior de Arquitectura*, en “Boletín de la Real Academia de Bellas Artes de San Fernando”, Año VIII, Tomo III, No. 71, pp.29-31, Madrid, Enero 1888
- <sup>26</sup> *Reglamento de la Escuela Superior de Arquitectura (Gaceta, 3 de Diciembre de 1864)*, en “Anuario de la Sociedad Central de Arquitectos”, Madrid, Primer año (1866), pp.32-41
- <sup>27</sup> Navascués Palacio, Pedro: *Suma Artis, Historia general del arte vol. XXXV; Arquitectura española 1808-1914*, Madrid; Espasa Calpe, 1993, p.54
- <sup>28</sup> 注23参照
- <sup>29</sup> 資料番号 N.5,423,032、カタルーニャ工科大学バルセロナ建築学部「ガウディ記念講座」、資料箱 “Documentos académicos”；注23の書、Mercader-2002, p.244
- <sup>30</sup> 注23と29で指摘した「ガウディ記念講座」の資料箱 “Documentos académicos” には、現在（2005年8月）までに発掘されたバルセロナ建築学校の学業成績に関わる資料が集められている。その中からガウディに関連する1871-1877までの学業成績（各学年期の定期試験と臨時試験の全受験生の成績一覧表、および各科目別受験生成績表）の調査結果をまとめたものである。
- <sup>31</sup> Bassegoda Nonell, Juan: *El gran Gaudi*, Sabadell; AUSA, 1989, pp.24-25
- <sup>32</sup> 注23資料箱、N.3141691；注23の書、Mercader-2002, pp.244-45
- <sup>33</sup> 注23資料箱、N.5,418,073；注23の書、Mercader-2002, pp.245-46
- <sup>34</sup> 注26の規定、第7条88項、p.40
- <sup>35</sup> *Exposició commemorativa del Centenari de l'Escola d'Arquitectura de Barcelona 1875-76/1975-76*, Barcelona; E.T.S.A.B, 1877, “Quadre de professors i plans d'estudis”